

①

能勢町・歌垣銀寄栗の森

文・写真 湯浅 淳子(歌垣SATOYAMA楽舎)

歌垣という地名は万葉の時代から行われてきた呪的信仰に立つ行事の中で、男女が求愛の”歌を掛けあう”の”歌掛け”が元となっていて、日本三大歌垣の中で能勢には”摂津歌垣山”として唯一歌垣の名前が残っています。ここは地元の人々が”地がええ”という所以の黒ぼく土が表出していて、麓に広がる盆地では千石もの米が獲れ、千石谷と名付けられたという言い伝えが残っています。

(歌垣の蔵元秋鹿酒造には千石谷という名前の吟醸酒がある。) 山すそには能勢町やJAにより保全されている銀寄栗の母樹園があり、飢饉を救ったという銀寄栗は土との相性が良いためか、幹回りの大きなクリの古木がたくさん残っています。近年市街化調整区域の指定があり開発から免れたここ東能勢ではネザサ伐採作業の甲斐もあって復活したトキワイカリソウを筆頭に在来種が多く見られ、楽舎の庭でも早春のセリバオウレン、セントウソウから始まり、夏のホタルブクロやキツネノカミソリ等、次々咲く草花に心躍ります。



歌垣SATOYAMA楽舎から歌垣山を見る



家の周りにはクリ園が広がる

②

三草山ゼフィルスの森 (能勢町)

文・写真 藤原 宣夫(大阪公立大学)

三草山は兵庫県猪名川町との境界部に位置し、その南麓の森はミドリシジミ類をはじめとする多様なチョウ類の生息地として知られています。ミドリシジミ類は樹上性のシジミチョウの仲間で、ゼフィルスという愛称で呼ばれています。ここには10種のゼフィルスが生息しており、その中にはナラガシワのみを食樹とするヒロオビミドリシジミが含まれています。この森は、古くから木炭づくりのための里山林として管理されてきており、クヌギ、コナラのほかナラガシワが多いことが特徴とされます。しかし、20世紀半ば以降は管理放棄され、さらにシカの食害を受けることにより林床にネザサが繁茂し、チョウ類の食草・食樹の減少・消失が懸念されるに至りました。大阪府はこの森を守るため、1992年に約14haを緑地環境保全地域に指定し、同時に大阪みどりのトラスト協会が借地し、“ゼフィルスの森”と名付けて管理を始めました。現在はボランティアの協力を得ながらネザサの刈り払いや萌芽更新などを行っています。森を守るには防鹿柵の設置などに、さらなる市民の協力が必要とされています。



ナラガシワの葉にとまるヒロオビミドリシジミ(大阪みどりのトラスト協会提供)



ネザサが繁茂するナラガシワの森とシカ(自動カメラによる撮影)